

ハンディ③ 人見知り弁護士

西村國彦さん

ゴルフの 旅人

クラブを持てば世界は友だち

第8回

アメリカ・オーガスタ特別編

33歳・独身男の オーガスタ1週間

マスターズには
5人のアマチュアが
出場できる

写真/野村誠一

Nishimura Kunitiko

1947年生まれ、東京大学卒。弁護士。プレーヤーの立場からゴルフ場再建に取り組んでいる。04年ニューセントアンドリュースGCジャパンのクラブチャンピオンに。現在HCは3



タイガーとの練習
ラウンドは、1カ月前から
約束してました
全米ミッドアマチャンピオン
ケビン・マーシュ

1972年生まれの33歳。05年全米ミッドアマ選手権優勝者の資格で今年のマスターズの出場権を獲得。ふだんはラスベガスで不動産業を営む。本人いわく「週1ゴルファーです」

旅人が
密着

月・火・水。練習日は何をやってもニコニコ



練習ラウンド。ティグラウンドで思わずニヤける
昨年より距離が40㍎も伸びた4番、240㍎のパー3。ワンオンすればこんな顔



仲間と記念写真は一生の思い出
18ホール回った後、家族、親族、友人、ビジネスパートナーとバシバシ記念写真



サインをねだられまくってしまった
アマチュアのケビンだってマスターズ出場者は英雄扱い。サインを求められる



タイガーと練習ラウンド。こんなのあり!?
タイガーに見つめられてティショット。同じ土俵でプレーできるなんて...

Photo by Kunitiko Nishimura

うらやましい33歳の アマチュアに出会った

メジャートーナメントをナマで見始めてまる1年。やっぱりマスターズは特別だ。セントアンドリュースの全英オープンなどは、街中のR&A前からスタートし、店舗が並ぶ通り沿いの18番グリーンでホールアウトする。スタンドの裏では、ギャラリーは携帯電話かけ放題だし、写真も撮れたりする。

でもオーガスタは、聖域だ。携帯電話持ち込み禁止は当然のこと、電池のついた双眼鏡すら持ち込めない。競技が始まる木曜からは、携帯電話のない、人間の本来の姿に戻れる4日間なのだ。でも友達といったん離れると、なかなか再会できなくなるのが、オーガスタ。

練習日、特に水曜日のパー3コンテストは、お祭りだ。マスターズに招待されないということは、世界中から、1週間忘れられるということ。招待選手達は、みな胸をときめかせてやってきて、月曜の朝から、誇らしげに練習場でボールを打ち始める。そして三々五々気の合う組み合わせで、1番ティからスタートしていく。練習日のギャラリーは競技が始まってからのパトロンとは少し違って、破目はずし気味。池越えの16番に陣取って、選手達に水切りショットをせがみ、成功するとやんやの喝采。3度も勝っているN・ファルドなどは、ドライバーでチヨロのパフオーマンスまでやるなどサードピク満点。水曜日朝、例のごとくタイガー、

ケ빈は8日間、 このクラブハウスを 専用ホテルにしていた



2日目終了。一輪に回ったスタッドラーとガッチャリ選手



オメーラはトップスタートで練習しているとボードに情報。あとの1人は、聞いたことないマーシユという選手。あわてて追いかけ、15番で待っている、若いけれど貫禄ある太めのおっさんがやってきた。

選手紹介を見ると、全米ミッドアマ優勝の資格で出てきたアマチュアで、ケビン・マーシユという。ペパーダイン大でゴルフをやっていた33歳だ。確か去年の全米オープンで3日目まで首位だったジェイソン・ゴアも同じ大学だったはず。おいおい、アマチュアがいきなり、タイガーたちと練習ラウンドできるのか。しかも練習日からホールを埋め尽くすギヤラリーに囲まれて。

タイガー達と練習ラウンドをしてもらえる幸せなアマチュアゴルファーが、アメリカにはいるのか。今回はこいつを追いかけてみよう。オーガスタはアマチュアのポビー・ジョーンズが造ったコースだもの。アマチュア選手を大切にすることに決まっているよね。確か、全米アマ1、2位、全英アマ・全米パブリックの優勝者も招待されるはずだ。全米パブリックベスト8までいったミッシェル・ウイにも、招待の可能性はあったのだ。

18番でタイガーと握手して感無量のマーシユは、たくさんの友人や家族に取り囲まれていた。記念撮影までやっている。一方のタイガーとオメーラは明日からの予選ラウンドに備え入念にパッティング練習だ。



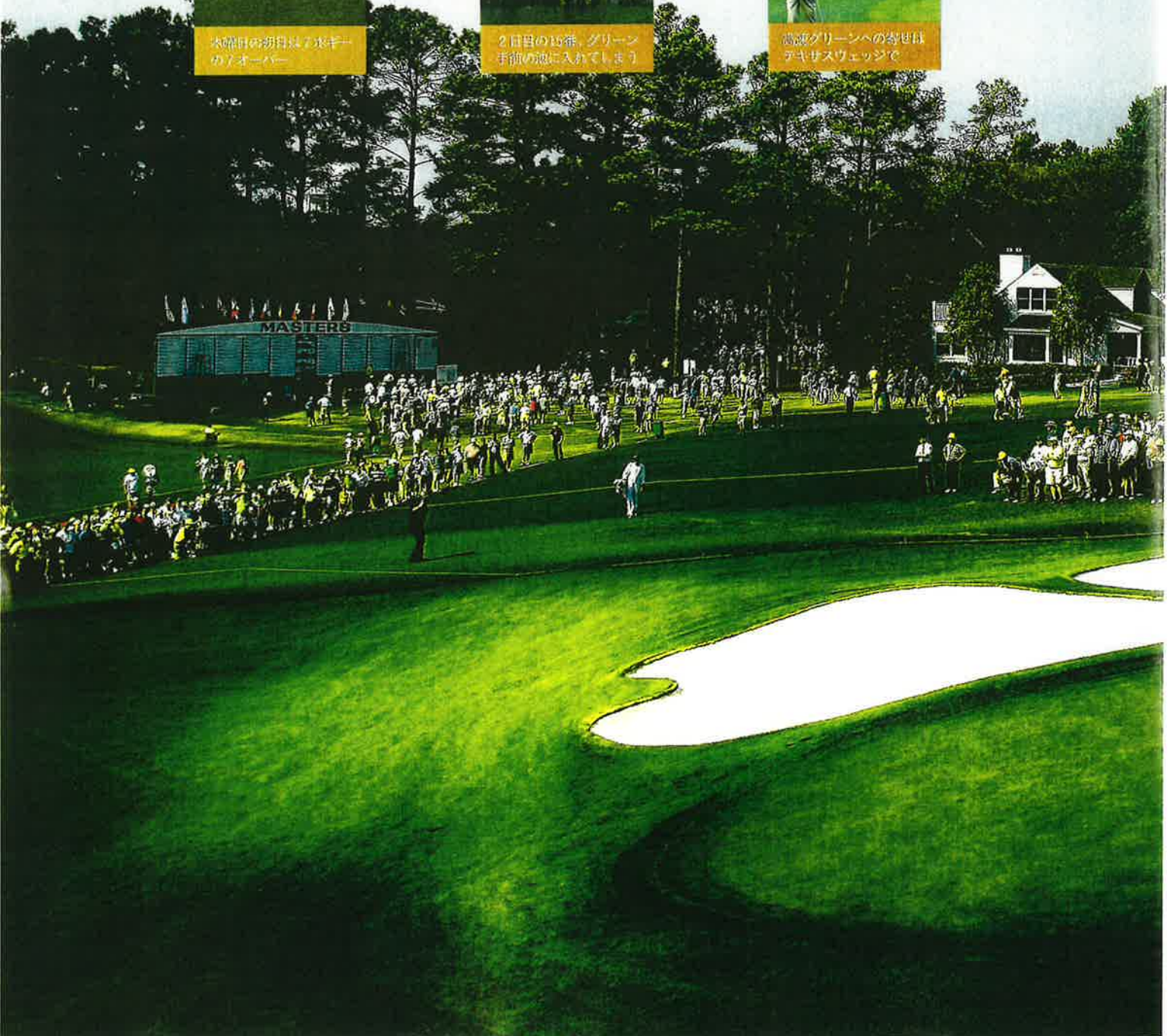
木曜日の初日は水キーの予選ラウンド



2日目の15番、グリーン手前の池に入れてしまう



高速グリーンへの寄せはデキサスウェッジで



マーシユはオーガスタ のメンバーとも友達に

まだ興奮さめやらぬマーシユに近寄り、「確かアマ時代のタイガーはクラブハウスに泊まっていたけど、君も泊まっているのかい」と聞く。すると、マーシユはとっても嬉しそうに、「さうなんです。チャンピオンズ・ロツカーの上の3階にあるクロウズ・ネスト（直訳するとカラスの巣）に招待されたアマ5人は1週間泊まれるんです」と言う。タイガーとの練習ラウンドでは、12番パー3で8番アイアンをシャンクさせ、タイガーに「J・ニクラスと同じショットをした」と大物扱いされたという。

聞けばふだんはラスベガスで不動産開発ビジネスをやっているとのこと。「シヨッピングセンターを建設中」だそう。日本のトップアマというと、プロよりゴルフをする時間やお金が自由な人も多いけど、マーシユはしっかり仕事をしているようだ。

このメンバーは アマチュアに とても親切だった

「大学卒業後プロを目指したけど、失敗した」という。「3年できつぱりあきらめ、今のビジネスに切り替えた。最高の決断だった」と。なんとあつぱれな転身。そしてビジネスを成功させながら、2000年から3年がかかりで、USGAにアマチュア復帰が認められた。アメリカ社会のふところの広さを感じるエピソードだ。そして与えられたチャンスを生かして、全米ミッドアマに挑戦。昨年決勝で10アップの大差で栄冠を勝ち取った。独身らしいが、子連れのガールフレンドもいる。今は楽しむゴルフ中心。でもA・マッテンジーやボビー・ジョーンズについてもきちんと知っている。自分が11歳の時ゴルフに引き合わせてくれた祖父がB・ジョーンズと並んで、今週の試合を空から見ている。この男のすごいのは、昔のゴルフ仲間だけでなく、オーガスタの会員たちやタイガーからも声をかけられ、友だちを増やしていること。そんな33歳の男が明日から予選ラウンドをまわるのだ。自信のほどを聞くと、90かもしれない、でもできるなら70でまわりたいと言う。

予選落ちも「アイル・ビー・バック!」

木曜予選初日、マーシユは7ボギーの7オーバー。でも結構落ち着いていた。実は、マーシユはこの半年、オーガスタ詣でを5回繰り返して、コースのことは充分わかっていった。1カ月前ここでタイガーにも会い、練習ラウンドの約束もしたとのこと。2日目、マーシユが自分のゴルフをやり始めた。1、2番連続バーデー

イ(本人いわく1番フェアウェイを歩きながら、スタドラーと励まし合った効果なのか、2人とも2つスコアを戻した)で、難しい5番まで2アンダー。2番パー5の3打目は、難しいライからバンカー越えのピンに向けたロブウェッジでの快心のショットだった。6番パー3も快心のピン筋ショットが1打左へ流れ、右の高い段から左下のグリーンへ。痛恨の4パットから、徐々に崩れて、この日だけで8オーバー。7番と11番では右の林から無理を承知のショットも強いられ、11番で2つ目のダブル。練習では270ヤを2オンしいーグルをとった15番も池に入れてしまい、通算15オーバー。彼の初めてのマスターズは予選2日で終わった。ホールアウト後、「5番までは完璧だったけど」と聞く。「そうなんだ、あの4パットから流れが変わった」と顔を曇らせた。でもすぐ、明るくきつぱりと言ってくれた。「アイル・ビー・バック。でも日曜までここにいるさ。チャド・キャンベルの応援もしないとね」。

僕のニューセントのボールマーカ―をおみやげにあげたら、結構喜んでくれた。これでラスベガスに行く楽しみもできたというわけだ。

日本でゴルフをやっている、こんな夢みたいなお話があるかな。アメリカは乱暴な競争もやるけど、まじめに夢を捨てないで頑張るゴルファーに夢を実現する道を開いている、素晴らしい国でもある。今度はミケルソンのグラッドスラムを追いかけ、メジャー大会探訪の旅はまだまだ続く。



「マーシユ」の握りでもっと強くなる。10歳から両親とゴルフ修行



ドライバーはテラーメイドのクラブ。飛距離はプロと比べて遜色なかった



キャディのクリスは9年前からのつきあい。ミッドアマでもかっついてくれた

KEVIN MARSH